

被害者・加害者にならないための
インターネット利用



情報教育学研究会(IEC)

情報倫理教育研究グループ

目次

インターネットの光と影	1
インターネットで何ができるか	3
インターネットで何が起きているか (I)	5
インターネットで何が起きているか (II)	7
インターネットで何が起きているか (III)	9
情報セキュリティと自己責任	11
健全なネットワーク社会	14
あとがき	16
参考文献	16

被害者・加害者にならないためのインターネット利用

<http://www.psn.ne.jp/~iec-ken/rinri/>

編者：

情報教育学研究会(IEC) 情報倫理教育研究グループ

発行日：

2000年 9月 25日 初版 (Ver1.0)

2003年 7月 20日 第2版 (Ver2.0)

2004年 10月 20日 第3版 (Ver3.0)

2012年 4月 20日 第4版 (Ver4.0)

2019年 7月 20日 第5版 (Ver5.0)

あとがき

この小冊子は、情報倫理の入門書である「インターネットの光と影－被害者・加害者にならないための情報倫理入門－」および「インターネット社会を生きるための情報倫理」に記載された内容を著者や出版社の了解のもとに要約したものです。

また、高等学校の教科「情報」で学ぶ内容や現実の社会で起っているトラブルの事例を載せました。この小冊子が、情報倫理教育に少しでも役立てていただければ幸いです。

入門書に関する情報、関連 URL などは、情報教育学研究会(IEC)の Web ページに記載されていますので、併せてご覧ください。

情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ代表
阿濱 茂樹 (山口大学 教育学部)

参考文献

- 1) 情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ編：インターネットの光と影 Ver6.－被害者・加害者にならないための情報倫理入門－，北大路書房（2018）。
- 2) 情報教育学研究会(IEC)・情報倫理教育研究グループ編：インターネット社会を生きるための情報倫理 改訂版，実教出版(2018)。

インターネットの光と影

「インターネット」は身近でとても便利なメディアで、生活に欠かすことができないものになってきました。SNS で多くの人と同時にコミュニケーションできたり，Web で簡単に情報検索やショッピングができたり，動画や画像を撮影して世界へ情報発信できたり……など，利便さはあげきれないほどです。この利便性は，私たちの生活を豊かにしてくれるものです。



しかし，便利である反面，危険なこともいっぱいあります。たとえば，ネットワーク上でのショッピングで，偽物が届いてしまう，買った覚えのない商品の請求が届くなど，トラブルや事件が頻繁に報じられてもいます。

また，きわだったトラブルと言えなくとも，一度も会ったことのない人と匿名でコミュニケーションするとき，互いに攻撃的になってしまったり，ときに無責任な情報のやりとりをしてしまったり，思わないことで他者に迷惑をかけてしまった，というようなことはなかったでしょうか？

小学生の子どもに初めて自転車に乗らせるとします。公園で、乗り方を教えます。フラフラしながらもなんとか乗れるようになります。さあ、もう街路を走らせていいものでしょうか。それが危険であることを誰もが知っています。

この危険性は、運転技術が未熟であるということではないのです。交通法規やマナーなどを知らずに運転すること、そしてそのことが引き起こす事故の重大さ（危険性）を意味します。私たちは、自転車の利便性と同時に、その危険性についてよく知った上で運転する必要があります。

さて、インターネットを利用する場合はどうでしょう？ 実は同じことなのです。インターネットをうまく乗りこなすためには、操作の知識・技術だけでは足りません。その利便性と危険性（インターネットの「光」と「影」）についてよく知っておくことが何よりも大切なのです。



インターネットの「光」の部分と、現実には起こっている「影」の部分とを十分理解し、被害者にならないようにすること、さらに他者への配慮を行い、加害者にならないようにすることが必要です。

「インターネットの光と影」¹⁾（はしがき）より

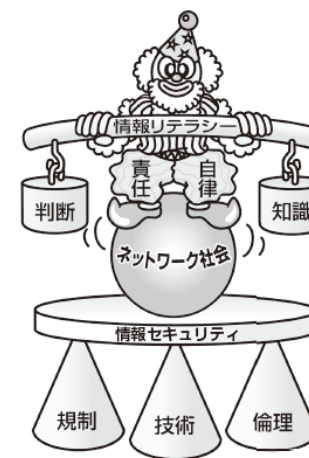
<総合的な対策の必要性>

健全なネットワーク社会を支える三本柱の情報セキュリティは、利便性の低下を最小限に抑えながらも、できることから対策を施していくという地道な作業の繰り返しによって維持されています。

すなわち、私たちには技術・規制・倫理の3つの力のいずれかのみならず、それらの知識をバランスよく身につけると同時に、実際の問題に対してはそれらの知識を用いて総合的な判断をすることが求められているのです。こうしてネットワーク社会で獲得したメディアリテラシーや情報リテラシーを通じて育成された私たちの力は、「生きる力」の一部となり、ポスト産業化社会といわれる現在の流動的な高度情報化社会の中において、精神的・物質的に豊かな現実社会を築く原動力となるとも考えられます。

私たちはネットワーク社会においても、現実社会と同様、最終的には自らの自律と責任において行動していかねばなりません。

そして、そうした行動の前提には、以上のような技術・規制・倫理の三本柱のそれぞれが、それぞれの特性を生かし、インターネットの利点を損なうことなくバランスよく調和・発展していくことが必要とされるのです（健全なネットワーク社会のモデル参照）。



健全なネットワーク社会のモデル

「インターネットの光と影」¹⁾（9.4 節）より

健全なネットワーク社会

<情報セキュリティを支える三本柱>

インターネット利用には様々な問題があり、問題の多くは情報セキュリティを強化することにより緩和される可能性があり、次の3つの立場からの強化が考えられています。

- (1)技術 伝統的な情報技術による強化です。不正アクセスなど情報セキュリティを脅かす問題が解決すると予想されます。
- (2)規制 法制度の整備や行政による基準設定など、公権力による規制があります。さらに、ネット上の違法情報を監視するなどして、違法・有害サイトなどの摘発に努めています。
- (3)倫理 規制はインターネットの匿名性、無痕跡性、ボーダレス性といった性質から、現実社会に対する規制ほど効果がないという見方もあり、個人の自覚・自律を高めるための情報倫理、ルールやモラル、ネチケットといった情報教育に期待が寄せられています。

ところで、私たちは、先に述べた情報セキュリティ対策三本柱のどれか一つに偏って依存してはなりません。

技術のみに依存した場合、技術だけで健全なネットワーク社会を形成するというのは少なくとも現時点では不可能です。規制のみに依存する場合、自由闊達なインターネットの活力を奪うのではないかと懸念されます。さらに、官民の監視もあまり強くなると、暮らしにくい窮屈なネットワーク社会になりそうです。倫理のみに依存するのも危険です。倫理がルール化し、それが絶対基準になってしまうことは、むしろ法規制とは異なるところに意義のある倫理規範の自滅行為であるとも考えられます。

インターネットで何ができるか

<Web ページによる情報検索・発信>

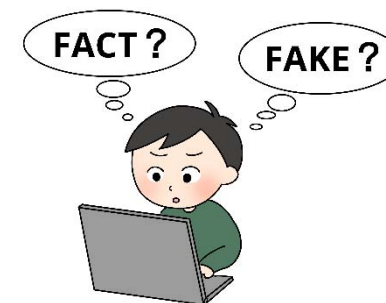
インターネットでは、私たちが興味・関心を持って知りたいことがらを Web 上のサーチ（検索）エンジンですぐに調べることができます

Web ページ（ホームページ）を作成することにより、インターネットのつながっているあらゆる場所から、Web ページの様々な情報を閲覧することができます。

<信頼できる情報とは>

Web ページで情報検索をする場合、検索サイトをうまく利用することも大切ですが、得られた情報が信頼できるかどうかを判断することも必要です。例えば、

- ・発信者の連絡先は明記されているか
 - ・引用したものの出典が明らかにされているか
- などを確認するとともに、同じ内容をもつ他の Web ページと比較することも大切です。



<SNSによるコミュニケーション>

SNS (social networking service) は、ネットワークを利用してメッセージやファイルなどを双方向でやり取りすることができます。

また、SNS 内にグループを作って交流したり、情報発信をしたりすることができます。電子メールなどと比べて個人間のコミュニケーションを深めることができます。



<電子メールによるコミュニケーション>

電子メールは、ネットワークを利用して端末同士がメッセージをやりとりする仕組みのことです。電子メールは、送信が非常に手軽で、相手に情報が届くのに必要な時間も大幅に短縮でき、同じ内容のものを大勢の人に一度に送信できるなどの特徴があります。また、メーリングリストは、インターネットの電子メールシステムを利用し、あらかじめ登録されているメールアドレス（参加者）に、メールを一斉に配送するシステムです。

電子メールやメーリングリストでは、次のようなことを守りましょう。

- ・他人のプライバシーを尊重する。
- ・著作権を侵害しない。
- ・わかりやすい題名（サブジェクト）をつける。
- ・相手の使用環境を考える。
- ・添付ファイルは、その大きさ（容量）を考える。

<サイバー犯罪>

私たちの身の回りでは、こんなことは起こっていませんか？

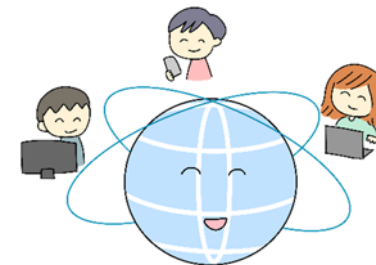
- ・著作権侵害
- ・違法コピー
- ・デマやうその流布
- ・また、インターネットを悪用したサイバー犯罪も増えています。
- ・なりすまし
- ・ID とパスワードの不正使用
- ・不正アクセス
- ・データやプログラムの消去や改ざん



<自己責任>

私たちのちょっとした「いたずら」や「不注意」が大きな問題になるかもしれません。また、故意に行った場合には、法律で処罰されることがあります。

インターネットの利用では、操作の知識・技術を身につけることも必要ですが、被害者だけでなく、加害者にもならぬように気をつけていくことが必要です。そして、自分の行動に責任を持って、インターネットの中での人権侵害がないような情報社会を築いていきましょう。



<コンピュータウイルス>

コンピュータウイルスとは、システムやプログラムに被害を及ぼす目的で作られたプログラムのことを呼びます。

次のようなことに注意しましょう。

- ・セキュリティ対策ソフトをインストールし、最新バージョンを維持する。
- ・ウイルスチェックを必ずする。
- ・不明な電子メールや添付メールを安易に開かない。
- ・関連 Web サイトでウイルス情報を収集する。
- ・定期的にバックアップをとる。



<チェーンメール>

チェーンメールとは、郵便でいう「不幸の手紙」のネットワーク版です。電子メールを媒体にすると、送信にかかるコストや時間が手軽なために、あっという間に世界中に回ってしまいます。

例えば、コンピュータウイルスの情報が送られてきても転送するのはやめましょう。

インターネットで何が起こっているか (I)

<個人情報とは>

個人情報とは、氏名、住所、電話番号、勤務先、性別、年齢などの個人に関するさまざまな情報のことです。インターネットの登場により、個人情報の流出やプライバシーの侵害を引き起こす危険性が増えてきています。

メールアドレスも重要な個人情報です。電子メールを送るとき、宛先 (Cc と Bcc) の意味とその違いを認識する必要があります。Cc で送った人のメールアドレスは他の送信相手にわかりませんが、Bcc で送った人のメールアドレスは他の送信相手にはわかりません。



<個人情報の漏えい>

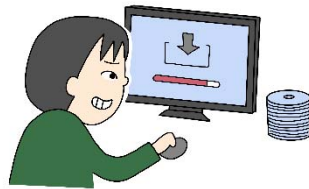
個人情報の漏えいには、次のような事例があります。

- ・インターネット接続サービスの会員のクレジットカード番号のリストが、住所、氏名、電話番号などとともに、インターネットで閲覧可能な状態に置かれた。
- ・懸賞付きのオンラインアンケートに回答したユーザの住所、電話番号などの個人情報のリストが、まったく関係のない Web ページで公開された。

<知的財産権、著作権とは>

知的財産権とは、人間の知的な創作物に対する経済的な価値を保護する権利で、その中でも、小説や音楽、美術など文化的な創作物の保護に関する権利（著作権）が注目されています。

情報技術の発達やインターネットの普及により、デジタル化された著作物を簡単に編集、加工、コピーすることができるようになりました。そのため、他人の著作物をコピーして配布するなど、著作権を侵害してしまうことがあります。



<著作権等の侵害>

次のような行為は、著作権法に違反するので注意しましょう。

- ・購入したCDの音楽やDVDの映像をコピーして、Webページを利用して友人に配る。
- ・Webページを検索して必要な文章をコピーし、自分が書いた文章のようにみせかけて発表する。
- ・有料のライブコンサートを開き、既成の音楽を演奏する。

また、次のような行為も、知的財産権などの権利を侵害し、関連の法律に違反するので注意しましょう。

- ・ある会社のロゴマークを無断でプラカードに描いて、イベントの入場行進で使う。
- ・有名なキャラクターをおそろいのTシャツにプリントしてオープンキャンパスで着る。

情報セキュリティと自己責任

<パスワード>

被害者・加害者にならないようにするためには、インターネットで起こっていることを理解し、パスワードなど情報セキュリティに対する認識を持つことが大切です。

<パスワードに対する注意>

パスワードを設定する時には、次の点に注意しましょう。

- ・アカウント名を使用しない。
 - ・辞書などにある語を利用しない。
 - ・単純な組み合わせを用いない。
- そして、次の点にも注意して、利用するようにしましょう。
- ・人に教えない。
 - ・同じパスワードを複数のWebページで使いまわさない。
 - ・パスワード入力を見られないようにする。

IDやパスワードが盗み出されると、メールやSNSなどが乗っ取られてしまう恐れがあります。やむを得ず記録する場合も、人目に触れない場所に保管したり、パスワード管理ツールを使用したりしましょう。



<ネットいじめ>

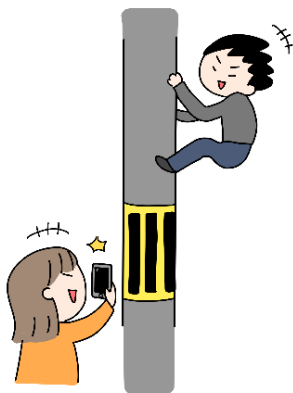
電子掲示板や SNS などのインターネット上のコミュニケーションツールを使って行われるいじめをネットいじめと呼んでいます。従来のいじめは、力の強い者が弱い者に対して、集団で一方的かつ継続的に精神的、身体的な苦痛を与えるものでした。

しかし、ネットいじめは、力の強さに関係なく言葉の暴力であることができ、継続的でなくても強烈な精神的苦痛を与えることができます。

<不用意な言動に対する注意>

SNS や掲示板などで発言する際は、次の点に注意しましょう。

- ・個人情報やプライバシーを侵害する情報を発信しない。
- ・違法行為や危険行為などを撮影して、投稿しない。
- ・特定の個人や組織を不快にさせるコメントを書きこまない。



インターネットで何が起こっているか (II)

<インターネットショッピング>

インターネットショッピングは、Web ページ上で商品を吟味、注文、支払いができるシステムのことで、次のような特徴があります。

- ・自宅にしながら購入ができる。
- ・遠隔地の商品も手軽に購入できる。
- ・個人情報などの情報セキュリティに不安がある。
- ・商品や相手のことがわかりにくい。

<インターネットショッピングに対する注意>

インターネットショッピングの増加とともに、トラブルも増える傾向にあります。

- ・前払いで代金を振り込んだが、商品が届かない。
- ・商品が送られてきたが、注文した商品と違っていた。
- ・通販業者に連絡がとれず、Web ページがインターネット上から消えていた（雲隠れ）。



インターネットショッピングでは、次のことに注意しましょう

- ・店に信頼性はあるか（例えば、実際にお店はあるか）
- ・代金の支払い方法、商品の受け渡し方法はどうか
- ・セキュリティ対策は十分か（特に、クレジットカード番号など重要な情報を入力するときの暗号化対策）

<フリーマーケット>

インターネット上にフリーマーケットのような個人が不用品を出品して、それを欲しい人が入札して購入することができるアプリのことをフリマアプリと呼んでいます。

インターネットオークションと異なり、出品者が価格を決定し、購入者が応じれば売買交渉が成立するため、即時取引できるのが特徴です。

<ポルノなどの有害情報>

インターネット上には、性表現、暴力表現、広告・勧誘など有害な情報もあります。

SNSで手軽に情報発信することができるようになり、セクスティングと呼ばれる性的な写真や動画、コメントなどをやり取りする問題が起こっています。恋愛関係にある者同士のやり取りだけでなく、インターネット上で多くの人から注目されたいという欲求から、不特定多数の人に自ら性的な画像を公開する場合があります。

このほか、性的な画像や動画をもとに金銭や性的なやり取りを強要するセクストーション（性的脅迫）などの被害も広がっており、エスカレートする傾向がありますので、注意が必要です。



インターネットで何が起こっているか（Ⅲ）

<ネット炎上>

SNSは手軽に画像や動画を投稿できる反面、その画像や動画を見た人の中に不快に感じたりする可能性があります。それにも関わらず、目立ちたいという思いや悪ふざけで投稿し、トラブルに発展することがあります。



限られた仲間しか公開されていないように設定していても、他人に不快な思いをさせたり、マナー違反の投稿記事は誰かが画面キャプチャーし画像を転送したりして炎上したりします。

<ネット依存>

日常生活に支障が出るほど、パソコンやスマートフォンなどを用いてインターネットを長時間使用するようになり、やめられなくなった状態をネット依存症といいます。中には、ネットゲームに依存した状態になった人もいます。



ネット依存症は、世界保健機構（WHO）精神保健部による研究用診断基準では、習慣および衝動の障害に分類されるもので、カウンセリングや医師などによる治療が必要になる場合もあります。